



令和7年度 第11号 令和7年9月29日(月)

2学期を順調にスタートできた9月です

2学期が始まって一月ほど経ちました。多くの児童が夏休みモードから脱け出して、規則正しく毎日の学校生活を送っている様子が窺えます。友人等と仲よく元気に挨拶しながら登校し、授業中もしっかり挙手して発言する児童の姿を多く見るにつけ、2学期が概ね順調にスタートできたことにホッと胸をなで下ろしています。(ただし、休み明けの週始めに忘れ物が多いようで、お家の人に届けてもらう様子を頻繁に見かけることが残念です。)
また、懸念していた交通事故の報告も今のところはなく、このまま2学期は『交通事故ゼロ』で全員が安全に過ごしてほしいとも願っています。



朝夕は秋を感じる日も増えてきたこの頃ですが、晴天になると残暑の厳しい日もあります。一日の寒暖差が大きいというのに、時間に追われない日々から学校での活動的な日々が多くなったことで、疲労(?)が蓄積してきた児童もいることと思います。また、9月の第4週からは運動会の練習も始まって身体を動かす機会・時間も増え、このことも疲れを生じさせている一因となっているかもしれません。これまでもお伝えしてきましたが、ご家庭におかれましては『早寝・早起き・朝ごはん』を心がけていただき、十分な休養と朝のエネルギーチャージについてご協力をお願いいたします。

陸上練習で自らの可能性に挑戦しています

10月8日に予定されている市陸上記録会に向けて、参加希望の5・6年生が放課後練習に勤しんでいます。普段は先生の指導の下で種目ごとに練習していますが、地域連携の一環として今年も伊勢崎商業高校の陸上部生徒の皆さんを招いて、より専門的な個別指導も受けています。ただし、伊商陸上部の生徒さんも自分の練習がありますので、毎日本校へ来ていただく訳にはいきません。今年度は4回ほど来校していただけることになりました。伊商の生徒さんからは陸上競技に関わる助言だけでなく、けがを未然に防ぐ準備運動なども実演を交えて教えてもらっています。校区内にある身近な高校の先輩方から教えてもらい、本校代表として各自の目標達成に向け頑張っています。

練習の成果が本番で発揮されることを祈っています。



朝食をしっかり摂って、一日をスタートさせよう

本校では、給食時に給食調理場の栄養士さんに来校してもらい、全ての学級が年間1回ずつ食育指導を受けています。9月16日・18日の給食時には5年生の各学級が食育指導を受けました。栄養士さんからは、各栄養素の役割と栄養バランスを考えた食事を摂ることの重要性を最初に指導されました。そのうえで、活力ある一日にするために朝食をしっかり摂ることの大切さや炭水化物・タンパク質・ビタミン類を偏りなく朝食で摂取することが成長期にある小学校高学年の児童には特に必要であることを教えてもらいました。好きなものばかり偏って食べていると体調不良をおこしやすくなったり生活習慣病になりやすくなったりすると言われてしています。これからの長い人生をずっと健康で過ごせるよう、小学生のうちから「毎朝、食事をしっかり摂る」「栄養バランスを考えた食事を心がける」習慣を身に付けたいものです。



丈夫な歯で、一生おいしく食べられるように

歯科衛生士さんを招いて、3年生を対象にした「歯みがき教室」を9月17日に行いました。

まず、むし歯になってしまう原因とむし歯が身体全体へ及ぼす悪影響、食習慣の見直しや歯磨き等でむし歯が予防できることを教えてもらいました。次に、模型を用いながら、望ましい歯磨き(ブラッシング)の方法について指導を受けました。歯科衛生士さんが模型をブラッシングしている様子を見ながら、児童は自分の歯をブラッシングしました。歯科衛生士さんが行う手本と手鏡に映る自分の歯磨きを見比べながら一生懸命に取り組んでいましたが、歯と歯茎の間や奥歯のブラッシングが難しい様子でした。

最近では、むし歯の数は減っていますが、歯肉炎等の歯茎の疾病が増えています。歯や歯茎が丈夫でないと、身体の様々な部分に不調が出てくる場合もあるそうです。小学生のうちから、歯や歯茎の健康について意識できるようになるといいですね。



若さあふれる教育実習生を受け入れています

9月22日から共愛学園前橋国際大学1名、群馬大学4名の教育実習生を受け入れました。前橋国際大学の実習生は10月21日までの4週間で5年1組の配属で、群馬大学の実習生については教育現場体験学習としての「ふれあい実習」ですので、9月26日までの4日間を1学年の配属で、それぞれ実習を行いました(前橋国際大学の実習生は今も教育実習を行っています)。

実習生ですから正式な先生ではありませんが、授業や休み時間、給食などで児童とともに時間を過ごし指導・支援します。実習生の若さあふれる言動から、様々なことを児童は学べることと思います。児童にとっては年の近い『お兄さん・お姉さん』として話しやすいとは思いますが、先生と児童という立場の違いはきちんと意識して、「節度」ある関係のもとで、児童は実習生から、実習生は児童からたくさん学んで欲しいと願っています。

